

名古屋市

山車まつり情報

江戸時代の名古屋城下では、名古屋三大祭とうたわれた東照宮祭・三之丸天王祭・若宮祭をはじめ、数多くの山車祭りが行われていました。東照宮祭は、庶民も行列に参加し、名古屋随一の賑わいを見せていました。その当時に出自をたどれる「名古屋型」の山車は、二層作りの構造にからくり人形を伴う点が特徴です。現在の名古屋市内の山車祭礼のほとんどは、この「名古屋型」を用いるものです。「名古屋型」を用いる祭礼でも、都市部と周辺部では祭礼の内容が異なり、それぞれの個性が見て取れます。さまざまなからくりや、夜祭の提灯を灯した山車も見どころの一つです。

情報の見方

地区名

まつり名称

祭礼場所

祭礼場所の住所

山車名称(組名等)

よみがな

山車等の特徴



筒井

筒井町天王祭

筒井天王社等

名古屋市東区筒井3丁目地内

神皇車(筒井町)

じんこうしゃ

建造時期：不明。広井村新屋敷の旧山車。三之丸天王祭で巡行。明治20年より筒井町の所有。大幕は青幕に金糸で波と千鳥、水引幕は白地に十二支。からくり人形「神功皇后」、「巫女」、「武内宿禰」、「唐子」、「ざい振り」。



筒井

筒井町天王祭

筒井天王社等

名古屋市東区筒井3丁目地内

湯取車(筒井町)

ゆとりぐるま

建造時期：不明。桑名町の旧山車。東照宮祭の山車として唯一現存。天保3年、桑名町より購入。大幕は狸々緋・緑・紺縦縞幕、水引幕は狸々緋に雲龍刺繍。からくり人形「安倍晴明」、「神子」、「笛吹き」、「太鼓打ち」。



出来町

出来町天王祭

須佐之男社等

名古屋市東区新出来1丁目地内

鹿子神車(西之切)

かしんじんしゃ

建造時期：不明。文化7年、若宮祭り住吉町の旧山車。屋根等は黒漆や金箔。水引幕は白羅紗地に金糸で孔雀、白羅紗地に金糸で雲竜刺繍等。からくり人形「老人の大將」、「逆立ちする小唐子」、「柄太鼓を叩く中唐子」、「ざい振り」。



出来町

出来町天王祭

須佐之男社等

名古屋市東区出来町3丁目地内

河水車(中之切)

かすいしゃ

建造時期：文政11年。若宮祭り住吉町の旧山車。中之切にあった石橋車が戦災焼失。戦後、河水車購入。高欄に若宮八幡宮社紋「橋」。水引幕は獅子と牡丹。からくり人形は「大將」、「石橋獅子」、「中唐子」、「ざい振り」。



出来町

出来町天王祭

須佐之男社等

名古屋市東区古出来1丁目地内

王義之車(東之切)

おうぎしんしゃ

建造時期：昭和20年代。文化2年に他町から購入するも戦災で焼失。戦後、再建。彫刻「雲竜」、「海龍」。水引幕は白地に麒麟等、大幕の狸々緋に黒字「古出来町」と刺繍。からくり人形「唐冠を付けた王義之」、「唐子」(2体)、「ざい振り人形」。



比良

比良祭り

六所神社

名古屋市西区比良3丁目地内

二福神車

にふくじんしゃ

建造時期：不明。文政6年～9年。彫刻「龍」、「波」、「水鳥」、「鷺鷥」(露出部に黒漆)。大幕は狸々緋に黒糸で河北と刺繍。特別な時に使用する緋と紺地の縦縞幕がある。からくり人形「恵比寿」、「大黒」、「ざい振り」。



比良

比良祭り

六所神社

名古屋市西区比良3丁目地内

湯取神子車

ゆとりみこくるま

建造時期：文政5年。東照宮祭旧桑名町の湯取車を模す。彫刻「鶴」、「双龍と雲」。大幕は無地の狸々緋で河南と金糸緑取り、中を黒糸刺繍。水引幕は黒字に金糸で松と多色で鳩。からくり人形「神主」、「神子」、「笛吹き」等。



名駅

花車神明社祭

神明社

名古屋市中村区名駅5丁目地内

唐子車(名駅)

からこしや

建造時期：天保12年。三之丸天王祭の見舞車。彫刻「波」等。屋幕は狸々緋と浅黄色地唐草紋羅紗の縦縞、夜幕は狸々緋に黒糸で内屋敷とある。水引は金欄瑞雲紋。からくり人形「倒立する小唐子」、「蓮台を押す唐子」等。



名駅
花車神明社祭
神明社
名古屋市中村区名駅5丁目地内

二福神車

ふくじんしゃ

建造時期：不明。元は三之丸天王祭車案に献灯する見舞車。先代が静岡県浜松市に残る。彫刻「千鳥」、「四神」。水引幕は白地に金糸で波濤。からくり人形「恵比寿と大黒」、「ざい振り人形の唐子」、「からくり仕掛けの宝袋」。



名駅
花車神明社祭
神明社
名古屋市中村区名駅5丁目地内

紅葉狩車

もみじがりしゃ

建造時期：不明。三之丸天王祭車案に献灯する見舞車。彫刻「紅葉」。大幕は狸々緋に金糸「紅葉狩」、左右と後方に狸々緋枠に金地で鹿。水引幕は金欄。からくり人形「平維茂」、「更科姫」、「従者」、「ざい振りの唐子」。



栄
若宮祭り
若宮八幡社
名古屋市中区栄3丁目地内

福祿寿車

ふくろくじゅうしゃ

建造時期：不明。若宮祭り大久保見町の旧山車。天保6年、徳川斉朝から狸々緋大幕を拝領。高欄下に珊瑚等で星座二十八宿を拝領。高欄下に珊瑚等で星座二十八宿。彫刻「霊芝」、「桃」等、福祿寿にちなんだモチーフ。からくり人形「福祿寿」、「唐子」(2体)、「幣振り」。



牛立
牛立天王祭
牛頭天王社
名古屋市中川区牛立町2丁目地内

牛頭天王車

ごずてんのうししゃ

建造時期：天保7年頃。八王子神社の旧山車。慶応元年、購入。高欄下に八王子神社紋所の銀杏の葉レリーフ多数。水引幕は紺地の羅紗地に丸い龍。からくり人形「太閤秀吉」、「木の上で倒立する小唐子」、「蓮台廻しの唐子」等。



戸田
戸田祭
八幡神社等
名古屋市中川区戸田1丁目～5丁目等

八幡社山車(一之割)

はちまんしゃだし

建造時期：寛政8年頃。彫刻「雲竜」(高欄)。からくり人形「粉引きの唐子」(2体)、「倒立唐子」、「ざい振り」(鬼頭二三)。



戸田
戸田祭
神明社等
名古屋市中川区戸田1丁目～5丁目等

神明社山車(五之割)

しんめいしゃだし

建造時期：寛政8年頃。彫刻「龍」(高欄)。水引幕は菊と桐の紋の刺繍。からくり人形「綾渡り」、「ざい振り」(鬼頭二三)。



戸田
戸田祭
白山神社等
名古屋市中川区戸田1丁目～5丁目等

白山社山車(四之割)

はくさんしゃだし

建造時期：寛政8年頃。白木造りで、彫刻「龍」(屋根・高欄)。水引幕は唐獅子に牡丹の刺繍。大幕は狸々緋に小篆字で「卯之割」と書かれている。からくり人形「大唐子」、「小唐子」、「ざい振り」(鬼頭二三)。



戸田
戸田祭
天満宮等
名古屋市中川区戸田1丁目～5丁目

天神社山車(二之割)

てんじんしゃだし

建造時期：寛政8年頃。伊勢湾台風で甚大な被害を受け、山車に関する製作年代などの資料も流出。昭和50年代に入り、復興の機運が高まり、修復されるに至った。からくり人形「越後獅子」、「ざい振り」。



戸田
戸田祭
鈴宮社等
名古屋市中川区戸田1丁目～5丁目

鈴宮社山車(三之割)

すずみやしゃだし

建造時期：寛政8年頃。伊勢湾台風で甚大な被害を受け、山車に関する製作年代などの資料も流出。昭和41年の鈴宮社御遷宮の際に修理。彫刻「龍」(高欄下)。からくり人形「文字書き唐子」、「粉引きの唐子」、「ざい振り」。



呼続
戸部天王祭
富部神社
名古屋市中南区呼続4丁目地内

高砂車

たかさごしゃ

建造時期：不明。昔は車案2輛があった。2階建てで、屋根には能人形2体と松を飾る。屋台周囲等だけでなく柱等も幕類で装飾。2階の屋台では稚児舞。現在は2階造りの屋台までの状態で本体を組み立て、一部の幕と能人形を飾るのみ。



丸の内
那古野神社例大祭
那古野神社
名古屋市中区丸の内2丁目地内

那古野神社の車楽

なごやじんじゃのだんじり

建造時期：不明。昔は2階部で稚児舞や楽を披露。宵宮では境内南の能舞台西に旧茶屋町所有車楽1輛を組み立て、提灯で半円球状に形造る。朝祭では、現存しない屋形部分に能人形「楊貴妃」を搭載し、社殿前に飾られる。

No Photo

本星崎
星宮祭
星宮神社
名古屋市中区本星崎町宮西

廻間組の山車

はざまぐみのだし

建造時期：平成14年。安政3年建造の山車は老朽化に伴い廃棄。平成5年に古い部材を使い小型トラックを改造して復活。その後、本格的な山車の復元機運が高まり、現在に至る。前方に唐破風前山を持ち、輪掛がついている知多型外輪。

No Photo

本星崎
星宮祭
星宮神社
名古屋市中区本星崎町宮西

田古屋組の山車

たごやぐみのだし

建造時期：平成12年。明治35年に名古屋市中区相生町で巡行していた山車を譲り受けた記録がある。昭和43年以降、巡行されなくなり、解体保存。平成4年に自動車改造して復活させ、平成12年には本格的な山車が復元された。

No Photo

本星崎
星宮祭
星宮神社
名古屋市中区本星崎町宮西

本町組の山車

ほんまちぐみのだし

建造時期：平成4年。旧山車は昭和20年に空襲で焼失した。昭和30年頃に白木で山車を復元。その後、巡行が中止されていたが、平成4年に復活。ゴムタイヤから木製車輪に替えられた。

No Photo

本星崎
星宮祭
星宮神社
名古屋市中区本星崎町宮西

大道組の山車

だいどうぐみのだし

建造時期：平成17年。先代の山車は明治9年に常滑市西ノ口から購入。昭和43年、老朽化のため廃棄。平成5年、トラックに唐破風の屋根を乗せ、彫刻で飾って復活。現在の山車に替わり不要になった平成5年の山車は星宮町に譲渡。



鳴海
鳴海祭(表方)
鳴海八幡宮
名古屋市中区鳴海町前之輪

唐子車(相原町)

からこしゃ

建造時期：江戸時代末。明治11年に相原町下郷本家が子の誕生祝で知多郡小野浦から購入し、知多型から名古屋型へ改造。のち町内に譲渡、戦後は保存会所有となる。彫刻「鳩」は八幡社にちなむ。からくり人形「ざい振りの唐子」等。



鳴海
鳴海祭(表方)
鳴海八幡宮
名古屋市中区鳴海町前之輪

作町の山車

さくまのだし

建造時期：天保8年。正面に両端が切破風の庇、障子を立て周囲を高欄が囲む。その下に腰幕をかけ、狸々緋の追幕を後面にかけける。彫刻「天毯に獅子」等。瀬川治助重定作で、多くに金箔。漆塗の角柱に飾り金具。



鳴海
鳴海祭(表方)
鳴海八幡宮
名古屋市中区鳴海町前之輪

根古屋の山車

ねごやのだし

建造時期：天保10年。後側追幕は狸々緋に「根古屋」と金糸刺繍。高欄下に腰幕。茶漆の丸柱に支えられた庇の下は、小太鼓を演奏するお囃子の舞台。彫刻「雲龍」、「松に鶴」、「獅子の谷落とし」等、瀬川治助重定による素木作り。



鳴海
鳴海祭(表方)
鳴海八幡宮
名古屋市中区鳴海町前之輪

本街の山車

ほんまちのだし

建造時期：嘉永元年。後部左右の大幕は狸々緋地に右が龍、左が虎。庇部分の水引幕は狸々緋地に鶴が刺繍。彫刻は「花鳥草木」を主に構成。本体の飾り金具も松。屋根の彫刻「龍」はその口から鉤が飛び出している。



鳴海
鳴海祭(表方)
鳴海八幡宮
名古屋市中区鳴海町前之輪

中嶋の山車

なかじまのだし

建造時期：弘化3年。大幕は狸々緋で波に千鳥、後面は狸々緋に中嶋街と白糸刺繍。水引は狸々緋、腰幕は雲に龍。彫刻「親子龍」、「六玉川」等。



有松
有松祭り
有松天満社
名古屋市緑区鳴海町米塚

布袋車

ほていしゃ

建造時期：不明。若宮祭り玉屋町の旧山車。明治24年頃、有松へ譲渡。車輪にブレーキがある。彫刻「宝尽くし」等。大幕は狸々緋に金糸で麒麟等。水引幕は白羅紗に雲鶴刺繍。からくり人形「布袋」、「蓮台に載った文字書き唐子」。



有松
有松祭り
有松天満社
名古屋市緑区鳴海町米塚

唐子車

からこしや

建造時期：天保年間。内海高宮神社祭の旧山車。明治8年頃、有松へ譲渡。彫刻は素木彫が多い。袋戸に襷絵。大幕は無地の狸々緋、水引幕は白羅紗に金糸で波と鯉。からくり人形「蓮台に載った文字書き唐子」「ざい振りの唐子」等。



有松
有松祭り
有松天満社
名古屋市緑区鳴海町米塚

神功皇后車

じんぐうこうしや

建造時期：明治6年。有松で建造。装飾が少なく、全体を黒漆、金箔、金具で飾る。彫刻「波濤」。高欄の金具に有松天満社紋の梅鉢。大幕は無地の狸々緋、水引幕は白羅紗に牡丹等刺繍。からくり人形「神功皇后」、「武内宿禰」、「神官」。



鳴海
鳴海祭(裏方)
成海神社
名古屋市緑区鳴海町乙子山

丹下の山車

たんげのだし

建造時期：不明。知多若しくは知立の形態的特徴をもつ。水引幕は紺地に鶴の群れ、大幕は狸々緋、前棚下にも狸々緋の幕。彫刻「波龍」(瀬川治助重定。素木)。本体は黒漆が塗られ、懸魚や金具等には金箔が貼られている。



鳴海
鳴海祭(裏方)
成海神社
名古屋市緑区鳴海町乙子山

北浦の山車

きたうらのだし

建造時期：文政2年6月。水引幕は緋色地に鶴の群れ、大幕は狸々緋、前棚下にも狸々緋の幕。本体は黒漆塗りで彫刻(瀬川治助)には金箔。前棚の風神幕の繫ぎ目にある切れ目は昔、三人遣いで人形を演じた名残。



鳴海
鳴海祭(裏方)
成海神社
名古屋市緑区鳴海町乙子山

花井の山車

はないのだし

建造時期：不明。水引幕は狸々緋に右に麒麟と鳳凰、左に龍と虎、後面に亀の四神が刺繍。大幕は狸々緋、前棚下にも狸々緋に花井町と書いた幕。透かし彫りの彫刻「竹林の七賢人」。からくり人形「魔振り」。



鳴海
鳴海祭(裏方)
成海神社
名古屋市緑区鳴海町乙子山

城之下の山車

きのものだし

建造時期：不明。知多若しくは知立の形態的特徴を持つ。水引幕があり、大幕は狸々緋に「鳳凰と麒麟」「獅子三匹」を金糸刺繍。前壇下にも狸々緋の幕。からくり人形「ペロ出し人形の幣振り」、「唐子」(五代目玉屋庄兵衛)。



大森
大森天王祭
八剣神社等
名古屋市守山区大森

大森天王車

おおもりてんのうしや

建造時期：不明。江戸時代、大八車2台を連ね、その上に提灯を灯して曳かせたところ伝染病がなくなったという伝承による。大幕は狸々緋で正面に天王と刺繍、水引幕は五ツ木瓜の金刺繍。からくり人形「三番叟」(前壇)。